



第120回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー1

患者が必要とする 適切な医療脱毛と 光老化対策指導

3波長蓄熱脱毛機と高機能サンスクリーン剤の導入効果

日時

2021年6月10日(木) 11:15~12:15

会場

パシフィコ横浜 第3会場(5F 501)
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

司会

近畿大学アンチエイジングセンター
近畿大学奈良病院 皮膚科 教授

山田 秀和先生

所属学会：日本皮膚科学会



演題

1

皮膚科専門医が医療脱毛を行う重要性

～アトピーやニキビなどの皮膚疾患のコントロールのために～

医療法人佑諒会 千里中央花ふさ皮ふ科 院長 花房 崇明先生

演題

2

どうして光老化対策指導が進まないのか？

指導の実践と経営的な価値の考察

はだいろはクリニック 院長 井上 礼奈先生



演題 1

皮膚科専門医が医療脱毛を行う重要性

～ アトピーやニキビなどの皮膚疾患のコントロールのために ～

[PROFILE]

2004年 大阪大学医学部医学科卒業
 2012年 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 博士課程修了
 2012年 大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学 特任助教
 2013年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 日本学術振興会海外特別研究員
 2015年 東京医科歯科大学皮膚科 講師
 2017年 千里中央花ふさ皮膚科 開院

[資格など]

医学博士(大阪大学大学院)
 日本皮膚科学会皮膚科専門医
 日本アレルギー学会アレルギー専門医
 日本抗加齢医学会専門医

医療法人佑諒会
 千里中央花ふさ皮膚科

花房 崇明先生

近年、医療脱毛の認知度が上がり、中高生の全身脱毛、男性のヒゲ脱毛などのニーズが高まっている。従来の熱破壊式のレーザー脱毛では、メラニンに反応する高出力のレーザーを照射するため、日焼けした皮膚やアトピー性皮膚炎(AD)などの炎症後色素沈着(PIH)のある皮膚では、照射による毛包炎や熱傷のリスクが上がるのが問題だった。一方、当院で使用しているソプラノチタニウムは低出力のレーザーを繰り返し照射する蓄熱式脱毛により毛包を破壊し脱毛するため、より安全なレーザー脱毛が可能である。

ADやニキビの患者ではひげ剃りやむだ毛処理により原疾患が増悪するため、患部の医療脱毛が疾患コントロールに効果的である一方、レーザー照射部に炎症やPIHがあると、照射による毛包炎や熱傷のリスクも無視できない。皮膚科専門医が皮膚疾患の状態を適切に評価した上で医療脱毛を行うことの重要性について、当院の症例を提示しながら述べたい。

演題 2

どうして光老化対策指導が進まないのか？ 指導の実践と経営的な価値の考察

[PROFILE]

2005年 奈良県立医科大学卒業。同年医師免許取得。
 臨床研修終了後、病理医としてスタートするも美容皮膚科へ転向。大阪市内の美容クリニックで研鑽を積む。
 2019年 きれいな肌に育てる美容皮膚科『はだいろはクリニック』を開院

光老化啓蒙プロジェクトの数年にわたる光老化認知度の調査によると、8割近い人が光老化を知らない状況が続いている。患者の光老化対策への意識を高めるためには、クリニックでの指導が必須である。しかし、指導の必要性は理解しつつも、実際に患者へ指導を続けていくことは難しい面もある。その大きな理由としてクリニックにおける光老化対策指導の経営的なメリットがあまり語られなかったことにあるのではないかと。当院では、患者に対し光老化対策指導をベースに肌診断を継続的に行うことにより関係性を深め、生涯顧客化を試み、経営的なメリットを確認した。本講演では、患者の光老化対策への意識を高めつつ、顧客化へと続く具体的なプロセスを解説する。さらに、光老化対策に必要な要件を満たすサンスクリーン剤として当院で採用している、光老化対策の先進国スイスで生まれた『アルトラサン』やその他のスキンケア指導の実例を紹介する。



はだいろはクリニック

井上 礼奈先生